Vacuume Tube Amplifier

TRUE SOUND INTEGRATED AMPLIFIER RA-VT11

radus

取扱説明書

ラディウス
真空管ステレオインテグレーテッドアンプ RA-VT11

このたびはラディウス製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。本書には、製品の設置、使用方法や取り扱い上の注意などが記載されております。製品を使用する前に必ず本書をよくお読みください。

本書は、いつでも参照できるように大切に保管してください。本書をはじめ同梱物の消失、紛失については保証いたしかねます。なお、本書は iPod、CD プレイヤーなどの再生機器の操作やスピーカーについての基本的な知識があることを前提に制作されております。それらの製品に関するご質問は、各製品に付属のマニュアルを参照いただくか、各メーカーまでお問い合わせください。

安全にお使いいただくために 2
ご使用の前に 3
- 同梱品を確認してください 3
- 緩衝材を取り外します 3
- 設置について 3
- ご使用上の注意 3

各部の名称と機能 4
- フロントパネル 4
- リアパネル 4

接続方法 5
- 接続上の注意 5
- 再生機器の接続 5
- スピーカーの接続 6
- 電源ケーブルの接続 7

再生 8
- 再生をする前に 8
- 再生をはじめる 8
- 入力ソースを切り替える 8
- 再生を終了する 8

技術資料 9
- 真空管について 9
- 真空管の交換 9
- バイアス調整 10
- ヒューズについて 11
- 製品仕様 11

参考
- レコードプレイヤーを接続する場合 5
- 6 Ωのスピーカーを使用する場合 7
- バイアス調整の電圧値について 11

安全にお使いいただくために

本製品を安全にご使用いただくために、本書に記載されている警告・注意事項を必ずお読みになり、内容をよく理解された上でご使用ください。記載の警告・注意事項を守らない場合、お客さまや第三者の方々への危害 (負傷、障害、死亡)、財産への損害 (故障、破損、破壊、損失) を与えたり、その原因となる可能性があります。本来の用途以外、本書に記載以外の方法での使用は絶対に行わないでください。

取扱いを誤ったために生じた本製品の故障、トラブルについては保証の対象外となります。また、再生機器やスピーカーなどに生じた損害についても弊社はいかなる責任も負いかねます。雷や火災などの災害を原因とする場合も同様です。

⚠警告

この項目を無視して誤った使い方をした場合、機器の故障などの物的損壊のみならず、火災、感電、やけど、事故等を原因に死亡、もしくは重傷を負う可能性があります。

- 本製品の設置、機器の接続や取り外しなどを行う際には、安全のために、必ず本製品の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから外して作業を行ってください。
- 本製品を使用する際には、接続する機器に付属のマニュアルもあわせて良く読み、それぞれの警告・注意事項を確認してください。
- 本製品の分解、改造、修理を絶対に行わないでください。火災、感電、故障の原因となる可能性があります。また、故障した場合に保証の対象外となります。本製品を購入いただいた販売店、もしくは弊社サポートセンターへ修理をご依頼ください。
- 本製品から異臭や異音がしたり、煙が出た場合は、ただちに本製品の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因となる可能性があります。本製品を購入いただいた販売店、もしくは弊社サポートセンターへ修理をご依頼ください。
- 本製品の内部に水や異物が入った場合、ただちに本製品の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因となる可能性があります。本製品を購入いただいた販売店、もしくは弊社サポートセンターへご連絡ください。
- 本製品を水を使う場所や湿気の多い場所で使用しないでください。また、濡れた手でさわらないでください。火災、感電、故障の原因となる可能性があります。
- 本製品の電源が入っている状態で真空管に触れたり抜き差しをしないでください。使用中は高温になっていますので、やけどの原因となる可能性があります。また、高電圧、大電流がかかっていますので、火災、感電、故障の原因となる可能性があります。
- 本製品の電源が入っている状態でヒューズに触れたり抜き差しをしないでください。高電圧、大電流がかかっていますので、火災、感電、故障の原因となる可能性があります。
- 電源ケーブルに無理な力を加えたり、加工しないでください。火災、感電、故障の原因となる可能性があります。破損した場合には、本製品を購入いただいた販売店、もしくは弊社サポートセンターへ交換をご依頼ください。
- 指定の電源電圧 (AC 100V) 以外の電源には絶対に接続しないでください。火災、感電、故障の原因となる可能性があります。
- 本製品は日本国内での使用向けです。日本国外での使用による故障、事故等について、弊社はいかなる責任も負いません。

⚠注意

この項目を無視して誤った使い方をした場合、機器の故障などの物的損壊や、記録情報の破損、消失の原因となる可能性があります。また、場合により負傷する可能性もあります。

- 本製品には、放熱のための通気孔が設けてあります。本製品を設置する際には、十分な放熱を行えるよう、通気の良い場所を選択してください。放熱が十分でないと発熱のために火災、故障の原因となる可能性があります。また、布などをかぶせて使用することは絶対におやめください。
- 本製品を次のような場所で使用、設置しないでください。故障の原因となる可能性があります。
  ・強い磁気が発生する場所。・静電気、電気的ノイズが発生する場所。・結露する場所。・漏電または漏水の危険がある場所。・不安定な場所。・振動のある場所。・直射日光の当たる場所。・火気の周辺、または熱気のこもる場所。・ホコリの多い場所。・通気の悪い場所。・カーペット、クッションや布団の上など沈み込む場所。
- 本製品を次のような方法で使用、設置しないでください。故障の原因となる可能性があります。
  ・緩衝材を取り付けたままにする。・逆さま、縦置き、斜めにする。・布やカバーなどをかける。・上に物を置く。
- ケーブル類を抜く際には、絶対にケーブル部分を持って引っ張らないでください。故障、破損の原因となる可能性があります。必ずプラグ部分を持って引き抜いてください。
- スピーカー端子からはみ出している芯線部分が、他の端子や芯線に触れないようにお気を付けください。ショートすると故障の原因となる可能性があります。
- 本製品を落としたり、強い衝撃を加えないでください。故障、けがの原因となる可能性があります。本製品は非常に重いため (約 17kg)、設置や移動の際にはお気を付けください。
- 指定のヒューズ (250V 2.5A) 以外のヒューズは使用しないでください。故障の原因となる可能性があります。また、交換してもヒューズが飛ぶ場合には、アンプ内部に故障がある可能性があります。本製品を購入いただいた販売店、もしくは弊社サポートセンターへ修理をご依頼ください。
- 本製品を長時間使用しない場合には、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

ご使用の前に

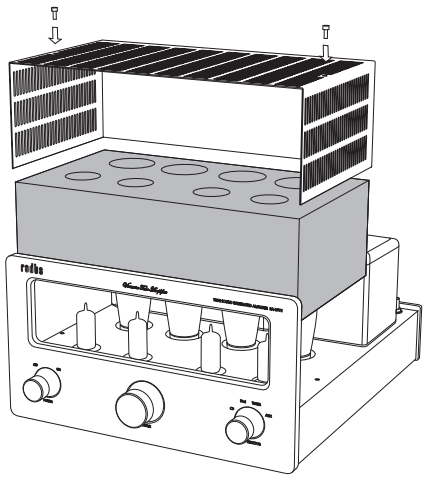
同梱品を確認してください

- 電源ケーブル× 1
- 取扱説明書 (本書) × 1
- ドライバー (真空管ガードを開けるために使用します) × 1
- 保証書× 1

緩衝材を取り外します

⚠警告

- **安全のために、必ず本製品の電源をオフにし、電源プラグを電源コンセントから外して作業を行ってください。**



本製品の出荷時には、真空管を保護するための緩衝材が装着されています。本製品をご使用になる前に必ず取り外してください。取り外し方は次のとおりです。

① 同梱のドライバーを使用して、真空管ガードの左右のネジを外します。

② 緩衝材を取り外します。

③ 再び同梱のドライバーを使用して真空管ガードをネジ止めします。

設置について

⚠注意

- **本製品を設置する際には、上方を含む本機の周囲に最低 10cm のスペースを設けてください。**
- **本製品には、放熱のための通気孔が設けてあります。本製品を設置する際には、十分な放熱を行えるよう、通気の良い場所を選択してください。また、布などをかぶせて使用することは絶対におやめください。**
- **その他の設置上の注意について、必ず本書「安全にお使いいただくために」もあわせてご覧ください。**

ご使用上の注意

⚠注意

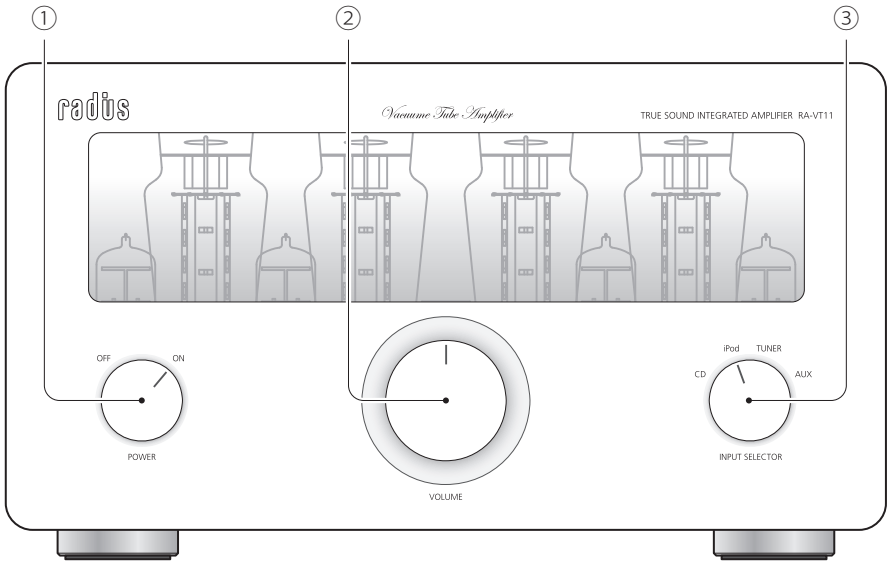
- **大音量で長時間使用されますと聴力に悪影響を及ぼすことがありますので、適切な音量でご使用されるようご注意ください。また、周囲の方の迷惑にならないよう、音量の上げ過ぎにご注意ください。**
- **あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。**

⚠重要

本製品の電源をオンにしている状態では、真空管ガード上部が非常に高熱になっております。やけどの原因となる可能性がありますので、絶対にお手を触れないようお気をつけください。

各部の名称と機能

フロントパネル



① パワー・スイッチ (POWER)

本製品の電源のオン / オフを切り替えます。右 (ON) にまわすと電源がオンになり、左 (OFF) にまわすと電源がオフになります。

② ボリューム・コントロール (VOLUME)

スピーカーに出力される音量を調節します。右にまわすと音量が大きくなり、左にまわすと音量が小さくなります。

③ インプット・セレクター (INPUT SELECTOR)

入力ソースを切り替えます。音声入力端子 (INPUT) に接続した再生機器から、お聴きになるものを選択します。

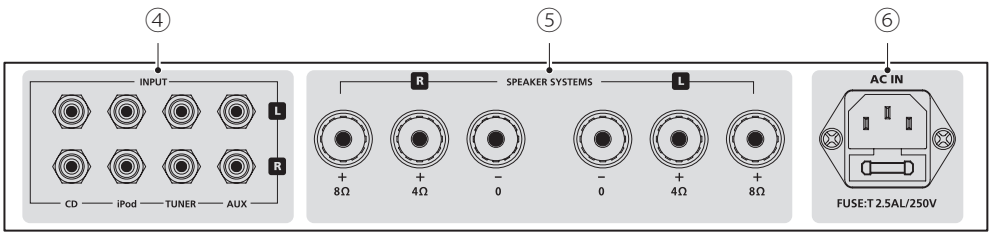
CD CD 端子に接続した CD プレイヤーの再生を聴くときに、この位置にセットします。

iPod iPod 端子に接続した iPod の再生を聴くときに、この位置にセットします。

TUNER TUNER 端子に接続したチューナーの再生を聴くときに、この位置にセットします。

AUX AUX 端子に接続したその他の機器の再生を聴くときに、この位置にセットします。

リアパネル



④ アナログ音声入力端子 (INPUT)

再生機器を RCA ピンプラグケーブルで接続します。

⑤ スピーカー端子 (SPEAKER SYSTEM)

スピーカーをスピーカーケーブルで接続します。バナナプラグにも対応しています。
接続するスピーカーのインピーダンスに合う端子を使用します。

⑥ 電源ケーブルソケット / ヒューズソケット

同梱の電源ケーブルを接続します。必ず一番最後に接続してください。
ヒューズはあらかじめ内蔵されています。

接続方法

接続上の注意

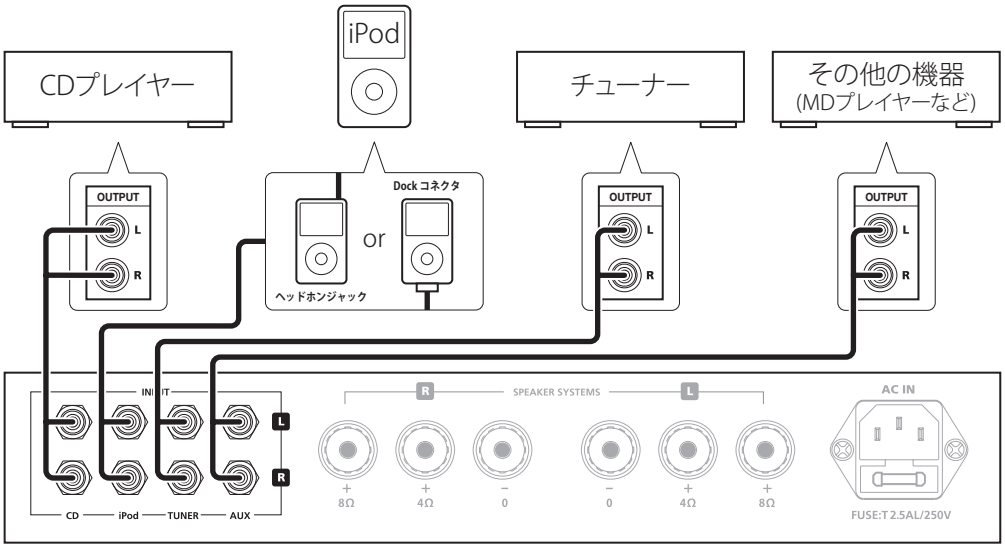
⚠警告

- 再生機器やスピーカーなどの接続や取り外しを行う際には、安全のために、必ず本製品の電源をオフにし、電源ケーブルの接続を外してから作業を行ってください。
- 再生機器を接続する前に、各製品に付属のマニュアルもあわせて良く読み、それぞれの警告・注意事項を確認してください。

⚠注意

- 左右のチャンネルを間違えないよう、良く確認して正しくケーブルを接続してください (L ⇔ L、R ⇔ R)。
- プラグは奥までしっかり差し込んでください。接触不良は雑音の原因となる可能性があります。

再生機器の接続



各端子にはホコリよけの端子キャップが取り付けてありますので、接続を行う際には取り外してご使用ください。

CD プレイヤーの接続

CD プレイヤーのアナログ音声出力端子 (OUTPUT) と、本製品の CD 端子 (CD) を、RCA ピンプラグケーブルで接続します。

iPod の接続

iPod のヘッドホンジャック、または Dock コネクタと、本製品の iPod 端子 (iPod) を、iPod に対応する RCA ピンプラグ変換ケーブルで接続します。

チューナーの接続

チューナーのアナログ音声出力端子 (OUTPUT) と、本製品のチューナー端子 (TUNER) を、RCA ピンプラグケーブルで接続します。

その他の再生機器の接続

AUX 端子 (AUX) は、CD 端子、iPod 端子やチューナー端子と同じ仕様の補助入力端子です。MD プレイヤーや DVD プレイヤーなどの音声出力を入力することができます。

使用する再生機器のアナログ音声出力端子 (OUTPUT) と、本製品の AUX 端子を、RCA ピンプラグケーブルで接続します。

参考：レコードプレイヤーを接続する場合

レコードプレイヤーを本製品に接続するには、フォノイコライザーが内蔵されたレコードプレイヤーを使用するか、外付けのフォノイコライザーを別途用意する必要があります。フォノイコライザーの内蔵されていないレコードプレイヤーは、出力が小さいため、そのまま接続してもほとんど音は聞こえません。

フォノイコライザーの接続や使用方法については、フォノイコライザーに付属の取扱説明書を参照してください。

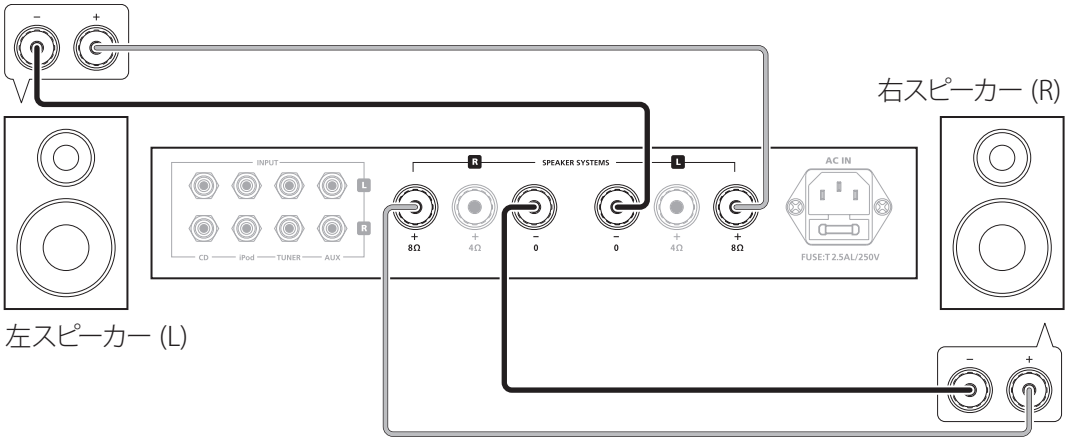
スピーカーの接続

スピーカーの接続端子￥と、本製品のスピーカー端子 (SPEAKER SYSTEM) を、スピーカーケーブルで接続します。
＋側の端子は使用するスピーカーのインピーダンスに応じて選択します。4 Ω～ 6 Ωのスピーカーは 4 Ωを、8 Ω以上のスピーカーは 8 Ωを使用します。
リスニングポジションから見て左に設置するスピーカーを L 側に、右に設置するスピーカーを R 側に接続します。

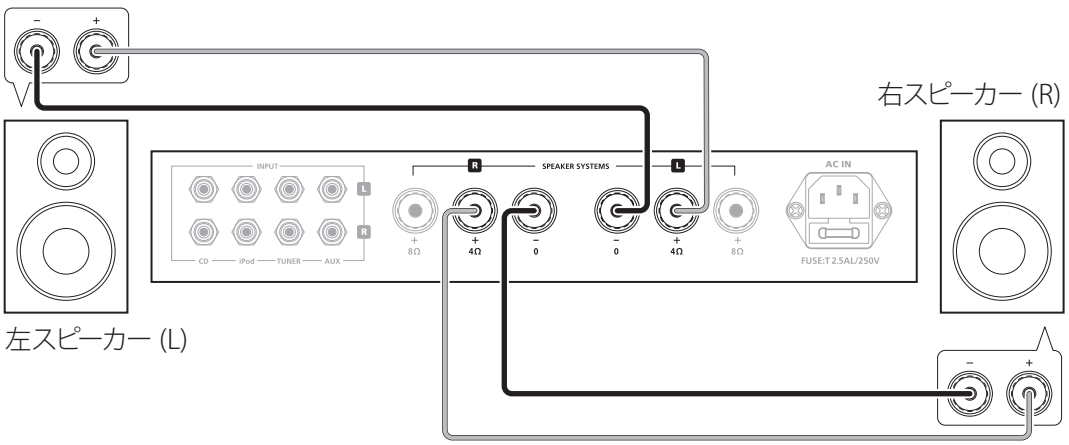
⚠注意

- **極性を間違えないよう、良く確認して正しくケーブルを接続してください (＋⇔＋、－⇔－)。左右どちらかの極性を間違えて接続すると、左右のスピーカーの位相が揃わず、中央に定位すべき音がどこから聞こえるのかはっきりしなくなり、ステレオ感が失われます。**
- **スピーカーケーブルの端の芯線部分が、スピーカー端子の内部にしっかり接触するよう差し込み具合を調整して下さい。差し込みが足りなかったり、差し込みすぎて正しく接触していない場合には音が出ないことがあります。**
- **スピーカー端子からはみ出している芯線部分が､他の端子や芯線に触れないようにお気を付けください。ショートすると故障の原因となる可能性があります。**
- **スピーカー端子をゆるめる際には、無理にまわしすぎないようお気を付けください。破損の原因となる可能性があります。**

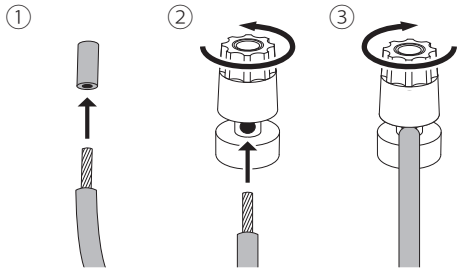
8 Ω以上のスピーカーを接続する場合



4 Ω、6 Ωのスピーカーを接続する場合



スピーカーケーブルの接続方法

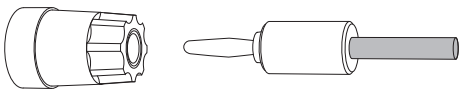


① スピーカーケーブルの端の被覆をニッパーやカッターなどでむき、芯線をねじります。

② スピーカー端子を左にまわしてゆるめ、端子基部の穴にケーブルの芯線部分を差し込みます。

③ スピーカー端子を右にまわして締めます。

スピーカーケーブルの接続方法 (バナナプラグの場合)



バナナプラグを使用してスピーカーを接続することも可能です。スピーカー端子中央部の端子カバーを取り外してからご使用ください。

※ バナナプラグについては、プラグに付属の取扱説明書を参照してください。

参考：6 Ωのスピーカーを使用する場合

4 Ωの端子に接続する

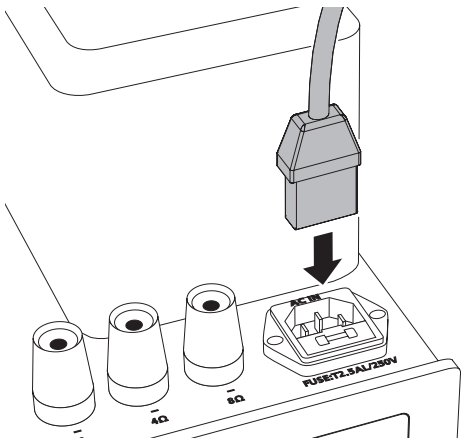
一般に、インピーダンスの低い方から高い方へ電流が流れる場合には問題ありません。ただし、4 Ωのスピーカーを接続する場合よりも若干出力音量が下がります。ボリューム・コントロール (VOLUME) で適切な音量に調節してください。

8 Ωの端子に接続する

アンプのインピーダンスよりも低いインピーダンスのスピーカーを接続すると、流れる電流の量が増加し、出力が上がります。ただし、アンプは過負荷の状態ですので発熱量も増加します。製品を長くご使用いただくためにも推奨できません。

電源ケーブルの接続

⚠注意 ● **同梱品以外のケーブルを使用された場合は保証の範囲外となりますことをご了承ください。**



① 再生機器やスピーカーの接続が終了したら、同梱の電源ケーブルを、本製品の電源ケーブルソケットに接続します。

② 本製品の電源がオフになっていることを確認して、電源プラグを家庭用電源コンセント (AC 100V) に接続します。

再生

再生をする前に

⚠注意

- **本製品の電源をオンにする前に、必ず本製品のボリューム・コントロール (VOLUME) が最小になっていることをご確認ください。不意に大音量の出力がされますと、故障の原因となる可能性があるのみならず、聴力に悪影響を及ぼすことがありますのでお気をつけください。**

① 本製品の電源をオンにする前に、ボリューム・コントロール (VOLUME) を左にまわし、音量を最小にします。

② 再生する機器の電源をオンにします。

③ パワー・スイッチ (POWER) を右 (ON) にまわして本製品の電源をオンにします。

④ しばらくすると真空管内部のヒーターが赤熱して柔らかな光がともり、動作可能状態になります。
※ 本製品は真空管に傍熱管を使用しているため、余熱に多少の時間がかかります。

再生をはじめる

⚠注意

- **再生機器の電源は、必ず本製品の電源よりも先にオンにしてください。**

① インプット・セレクター (INPUT SELECTOR) で入力ソースを選択します。

② 再生機器を操作して再生を開始します。

③ 本製品のボリューム・コントロール (VOLUME) をまわして音量を調節します。

入力ソースを切り替える

⚠注意

- **入力ソースを切り替える前に、必ず本製品のボリューム・コントロール (VOLUME) が最小になっていることをご確認ください。不意に大音量の出力がされますと、故障の原因となる可能性があるのみならず、聴力に悪影響を及ぼすことがありますのでお気をつけください。**

① 本製品のボリューム・コントロール (VOLUME) を左にまわし、音量を最小にします。

② インプット・セレクター (INPUT SELECTOR) で入力ソースを選択します。

⚠重要 **再生機器の出力レベルの違いにより、ボリューム・コントロールの位置は同じでも入力ソースにより音量が異なりますのでお気を付けください。**

再生を終了する

⚠注意

- **再生機器の電源をオフにする場合は、必ず先に本製品の電源をオフにしてください。**

① 再生機器の再生を停止します。

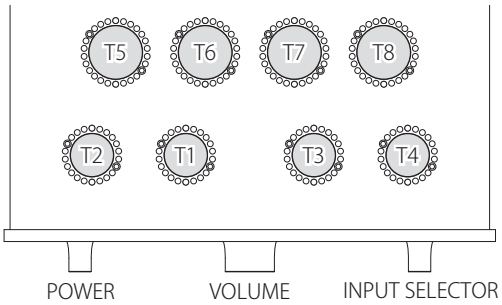
② 本製品のボリューム・コントロール (VOLUME) を左にまわし、音量を最小にします。

③ パワー・スイッチ (POWER) を左 (OFF) にまわして本製品の電源をオフにします。

④ 再生機器の電源をオフにします。

技術資料

真空管について



各真空管の役割は次のとおりです。左図はアンプを上方から見た状態です。

T1・T3　入力管 (2C51)

T2・T4　ドライバー管 (2C51)

T5 ～ T8　出力管 (6L6G)

真空管の交換

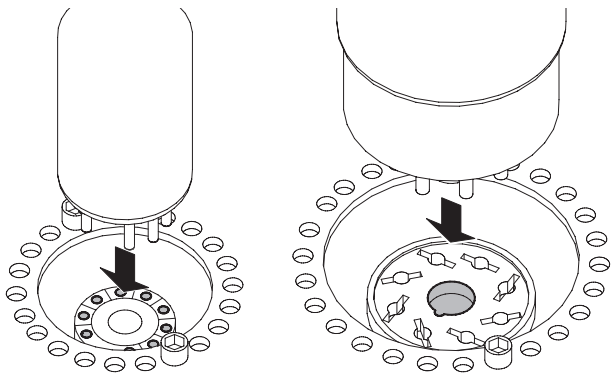
真空管が破損したり、寿命になった場合には、互換性のある真空管と交換することができます。また、真空管を交換することで音質の違いを楽しむこともできます。交換する真空管は、左右チャンネルで同じものを選択します。その際には、必ずしも電気的特性の揃ったマッチドペア (2 本)、マッチドクワッド (4 本) を使用する必要はありません。次の手順に従い作業を行ってください。

⚠警告

- **安全のために、必ず本製品の電源をオフにし、電源プラグを電源コンセントから外した状態で作業を行ってください。また、接続している再生機器やスピーカーもすべて取り外してください。**

⚠注意

- **電源をオフにした直後の真空管は高温になっておりますのでお気をつけください。**
- **交換する真空管は、必ずピン配列やヒーター電圧などが等しい、互換性のあるものを選択してください。**



T1～T4　　T5～T8

① 本製品の電源をオフにし、電源プラグを電源コンセントから外してしばらく放置します。

② 同梱のドライバーを使用して、真空管ガードを取り外します。

③ 取り付けられている真空管を取り外します。力を入れてまっすぐ引き抜くのではなく、小刻みに揺すりながら丁寧に抜いてください。

④ 新しい真空管を差し込みます。正しい向きでソケットに挿入してください。間違った向きで差し込もうとしたり、無理な力を加えますと、真空管のピンが折れ曲がる可能性がありますのでお気をつけください。
T1～T4 (入力管、ドライバー感) はピンの位置に合わせて、T5～T8 (出力管) はソケット中央部のくぼみに合わせて差し込みます。

⑤ 真空管ガードを取り付けます。

⑥ 出力管を交換した場合にはバイアス調整が必要になります。「バイアス調整」の手順に従い作業を行ってください。

⚠重要　**真空管の交換や、バイアス調整は自己責任にて行ってください。これらの作業中、もしくは作業後に起きました損害につきましては、保証の範囲外となりますことをご了承ください。**

バイアス調整

バイアス調整は出力管を交換した場合に、交換した真空管それぞれに対して行う必要があります。真空管の特性には個体差がありますので、バイアス調整を行わない状態でアンプを使用すると、本来の音質が得られないばかりか、4 本の出力管の負荷にばらつきが出て、真空管の寿命を縮める原因となりますのでご注意ください。なお、バイアス調整では電圧を測定しますので、回路テスターをご用意ください。

⚠警告

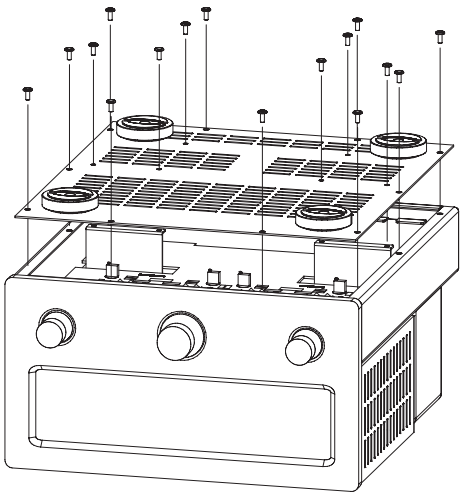
- **安全のために、底部のパネルを外す際には、必ず本製品の電源をオフにし、電源プラグを電源コンセントから外した状態で作業を行ってください。また、接続している再生機器やスピーカーもすべて取り外してください。**

⚠注意

- **電源をオフにした直後の真空管は高温になっておりますのでお気をつけください。**
- **テスターの使用方法に関しては、製品に付属のマニュアルを参照いただくか、メーカーまでお問い合わせください。**

① 本製品の電源をオフにし、電源プラグを電源コンセントから外してしばらく放置します。

② 本製品を裏返し、底部のネジをすべて外してパネルを取り外します。

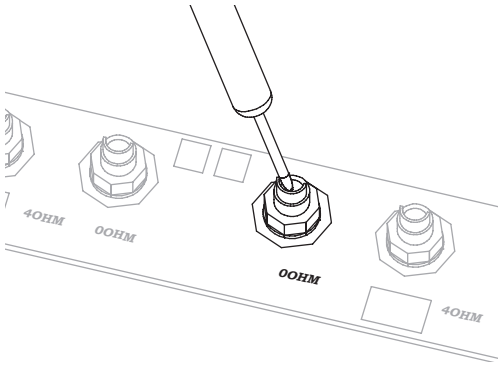


③ 本製品の電源がオフになっていることを確認して、電源プラグを電源コンセントに接続します。

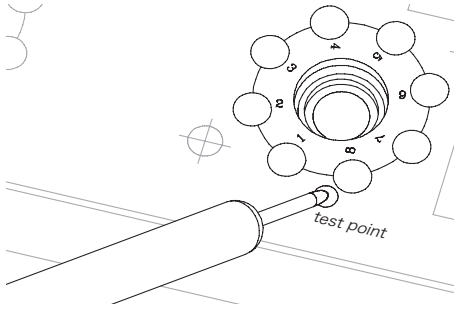
④ ボリューム・コントロール (VOLUME) が最小になっていることを確認して、本製品の電源をオンにします。

⑤ テスターを直流測定モードにします。

⑥ 本製品後部の基板上にあるスピーカー端子を確認します。「0OHM」と表記されているマイナス端子がありますので、テスターのマイナス端子を接触させます。

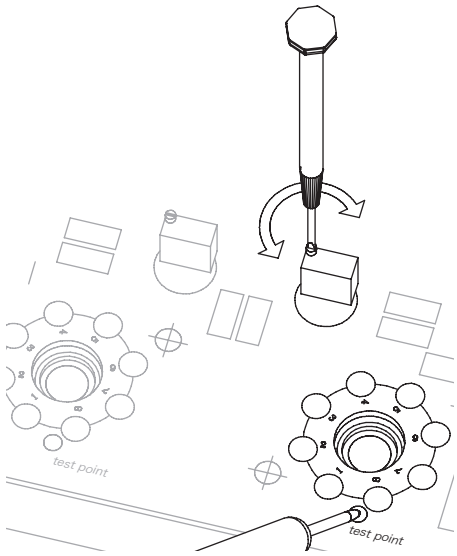


⑦ 交換した真空管が差し込まれているソケットを確認します。8 番端子のすぐ脇に「test point」と表記されている端子がありますので、テスターのプラス端子を接触させます。



⑧ テスターの数値を確認しながら、測定する真空管ソケットと対になる可変抵抗のバイアス調整ボリュームを、精密ドライバーのマイナスなどを使用して左右にまわします。

バイアス調整ボリュームはスクリュー式ですので何回転も回ります。急激に回転させると真空管が破損する可能性がありますのでお気をつけください。



⑨ テスターの直流電圧値が 0.36V ～ 0.4V の範囲になるように調節してください。

⑩ 調整が終わりましたら、もとの状態に戻します。

参考：バイアス調整の電圧値について

ハムノイズが出る場合

家庭用電源の電圧は変動していますので、規定の電圧範囲に調整しても最良の音質で再生できるとは限りません。正しくバイアス調整を行ってもハムノイズ (「ジー」というノイズ) が出ている場合は、しばらく時間をおいて調整してみてください。

また同様に、真空管の特性のばらつきからハムノイズが出る場合もありますので、実際にスピーカーの音を確認して、ハムノイズが聞こえないように調整してください。その場合には、規定の電圧値から若干外れることもあります。

左右それぞれのチャンネルでペアになる 2 本の出力管 (T5 ＋ T6、T7 ＋ T8) の電圧値を同程度に揃うように調整してください。例えば T5 を交換してバイアス調整をしてもハムノイズが出ている場合に、T6 も再調整してみてください。

規定の電圧値に調整できない場合

電圧の値が高すぎたり低すぎたりする場合は、真空管に問題がある可能性があります。その場合は真空管を交換してください。

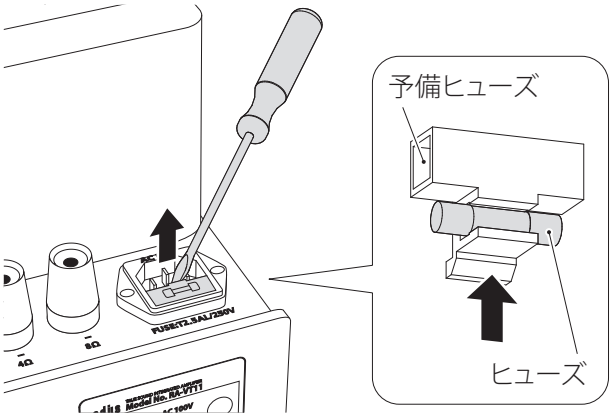
ヒューズについて

⚠警告

- **安全のために、必ず本製品の電源をオフにし、電源プラグを電源コンセントから外した状態で作業を行ってください。また、接続している再生機器やスピーカーもすべて取り外してください。**

⚠注意

- **指定のヒューズ (250V 2.5A) 以外のヒューズは使用しないでください。故障の原因となる可能性があります。また、交換してもヒューズが飛ぶ場合には、アンプ内部に故障がある可能性があります。**



本製品は電源部のヒューズに 250V 2.5A のものを使用しています。ヒューズの交換を行うには、左の図のように、マイナスドライバーなどでヒューズソケットを引き出してください。
ヒューズソケットには予備のヒューズも一本収納されています。予備ヒューズは交換に使用することが出来ます。

製品仕様

出力段回路形式	クラス AB、プッシュプル
使用真空管	6L6G × 4、2C51 × 4
定格出力	15W+15W (8 Ω)、15W+15W (4 Ω)
全高調波歪率	0.1% 以下 (1kHz)
周波数特性	20Hz ～ 40kHz (-1dB)
SN 比	94dB
入力端子	RCA 端子 (ステレオ× 4ch)

入力感度	300mV
負荷インピーダンス	8 Ω、4 Ω
電源電圧	AC 100V
電源周波数	50/60Hz
定格消費電力	120W
ヒューズ	250VAC T2.5A
外形寸法・重量	330 (W) × 186 (H) × 385 (D) mm、約 18kg

※ 本製品の仕様、および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

商品に関するお問い合わせはラディウステクニカルサポートまで

フリーダイヤル **0120-09-5587**
平日10〜12時/13〜17時 [土日・祝祭日、夏期・年末年始特定休業日を除く]

ラディウスホームページ **http://www.radius.co.jp**

製品について疑問に思ったり、不具合が見られる場合はまずラディウスホームページのサポート情報で「Q&A」をご確認ください。本書やサポート情報ページをご覧いただいても問題が解決しない場合はお電話によるお問い合わせも受け付けております。お問い合わせの内容によってはご回答までに日数を必要とする場合がありますことをご了承ください。

＊ iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. あるいはアップルジャパン株式会社の商標です。

＊ 一般に、記載されている製品名、会社名は各社の登録商標または商標です。

＊ 本書の文中では™、®、および © マークを表示しておりません。

＊ 本書で使用されているイラストは、説明のための便宜上、厳密ではないことがあります。

＊ 本書の著作権はラディウス株式会社に属します。当社に許可なく本書の一部、もしくは全部を複写、複製、改変、もしくは転載することを禁じます。

＊ 本書に記載されている内容に従うことにより生じる結果について、弊社はいかなる責任も負いません。

＊ 本書の内容に不明な点、誤り、もしくは記載もれなどがある場合は、本製品をご購入いただいた販売店、もしくは当社サポートセンターまでお問い合わせ下さい。

＊ 本書の内容は改良のため予告なく変更することがあります。

＊ 本製品の仕様、および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

MANRAVT11001

ラディウス株式会社